



コミュニケーションレポートとは

組合員や地域の皆さまとのコミュニケーションが
深まることを願い、作成したレポートです。
コープこうべの取り組みを「ターゲット2030」と
SDGs(持続可能な開発目標)を基調に編集しています。

INDEX

2020年度の取り組み「コロナをこえて」	2
ターゲット2030	4
つながり	6
健康	12
環境	14
あんしん	18
ターゲット2030 × SDGs	22
地区別 活動エリア	23
コープこうべグループの紹介	23



コロナをこえて ~やさしさをチカラに~

2020年度は新型コロナウイルスの影響で、私たちの暮らしは様々な試練に見舞われました。今まで当たり前であったことが急に出来なくなったり、大切にしてきたつながりが分断されたり。そんな中、一人ひとりにできることは小さいけれど、やさやかな営みがつながることで、世界をやさしさに満たせたら。そう願い、組合員や地域と共に進めてきた「コロナをこえて」の取り組みを振り返ります。



01

地域食堂を お弁当で再開しました

各地域の「みんなの食堂」「こども食堂」が、新型コロナウイルスの影響で活動休止に。代わりに2020年度はお弁当の配食で、活動を再開したところが複数ありました。お弁当を取りに来られた高齢者や子どもたちとの久しぶりの対面に、活動者も元気ももらいました。

コープこうべは、こうした形で活動を継続することも食堂などに対して、フードドライブなどの食料品支援の取り組みを強めました。



02

期待をチカラに 宅配ご利用組合員の増加

外出をなるべく控えたいというニーズが増加。自宅まで商品をお届けする宅配事業の利用者が急増し、2021年2月には宅配登録軒数が50万軒を超えました。組合員や地域の暮らしを支える生協として、宅配事業に対する期待にしっかりと応えてまいります。



03

福祉作業所と連携 「つながるマルシェ」を開催

地域イベントの中止が続き、福祉作業所では商品を販売する機会が減ってしまい深刻な課題の一つになっています。そこで、2021年2月・3月、各地域の福祉作業所と障がい者支援団体、コープこうべが連携し、「つながるマルシェ」を実施しました。

心身に障がいを持つ人たちが生産したパンや焼き菓子、手芸品、雑貨などを販売。34店舗のべ100以上の事業所が出店し、地域との交流や、やりがいにつながりました。



04

SNSの活用で「家食」応援

自宅で食事をする機会（「家食」）が増加。各地区本部では広報誌だけでなく、インスタグラムやフェイスブックなどのSNSを活用し、手軽で栄養バランスに考慮したレシピを動画で紹介するなど、家庭での食事作りを応援しました。

また、オンライン料理会も開催し、出来上がった料理を参加者がSNSにアップするなど、双方向でのやり取りが実現しました。



05



ひょうご消費者セミナー 「コロナ時代の居場所のを見つけ方」

適格消費者団体の認知度向上のため、兵庫県生協連、認定NPO法人ひょうご消費ネット、NPO法人消費者支援機構関西とコープこうべの4団体が主催者となり、くらしのさまざまなテーマについて毎年1回「ひょうご消費者セミナー」を開催しています。



自分の居場所を見失っている人が増加している中、「人」と「人」とが集える場の大切さを今こそ感じてほしいとの想いから、2021年2月に開催。罪を犯した少年や「Kビジネス」に走る少女と対話を続け、支援や居場所づくりを続けてきた講師の語りから、コロナ時代の「居場所」探しの大切さを学びました。

07



社会的に弱い立場にある人への 食料品提供の取り組み

2020年5月から7月にかけて米やカップ麺、レトルト食品などの即食品の提供を呼び掛ける緊急フードドライブを41店舗で実施しました。また同年5月には、ハート基金※を活用し、「新型コロナウイルスは自然災害と同等の影響を及ぼしている」という考えから、年間1000万円を上限に拠出を決定。地域の社会福祉協議会をはじめ、フードバンクや子ども食堂、シングルマザー支援団体、大学生など100を超える団体に食料品(米・麺・餅など)を提供しました。食料品は団体を通して、社会的に弱い立場にある方々への支援に活かされました。



※ハート基金:コープこうべ災害緊急支援基金

06



「高齢者等専用のお買い物時間」へのご協力ありがとうございました

2020年4月から5月、店舗の開店直後の30分間を「65歳以上のご高齢の方」「お身体に障がいをお持ちの方」「妊産婦の方」専用のお買い物時間として設定しました。

新型コロナウイルスの影響により多くの方が不自由な思いをされていた中、組合員の皆さまのご理解とご協力のもと、特に不安を感じていた方々に、安心してお買い物いただくことができました。現在は「店舗ごとに、空いている時間帯をお知らせする」スタイルに変更し、お買い物しやすい時間を選んでご来店いただけるよう、環境整備を進めています。



08



ポストコロナのミュージックビデオ 「さんぶんのに」制作

「コロナ禍でも人と人とのつながりを大切にしていこう」というメッセージを込め、兵庫県の助成・協力を受けて、アコースティックデュオ「にこいち」の楽曲を動画にしたミュージックビデオ「さんぶんのに」を制作しました。

楽曲は店舗内のBGMなど、様々な場面で活用されました。



YouTube「さんぶんのに」
～ポストコロナメッセージソング
コープこうべ×にこいち～



ターゲット2030

みんなが(で)
できること

人と人がやさしさで つながり、助け合える

わたしたちは、人と人とのつながりを大切に、
様々な資源をつなぎあわせることで、
笑顔あふれるコミュニティづくりの一翼を担います。

- ① 助け合える「仕組み」や「機会」を
地域社会とともにつくる
 - ・人が出会える、くらしの拠点づくり
 - ・地域諸団体と連携したさまざまな活動づくり
- ② さまざまな資源をつなぐ
 - ・「人」「モノ」「コト」「情報」をマッチングする
プラットフォームの役割
- ③ くらしのインフラとしての役割を担う
 - ・多様なくらしに対応できる、
次世代につながる場づくり

やさしさつむいで

ありたいまち、
くらし

つながり

人と人が
やさしさでつながり、
助け合える
「まち、くらし」

P06～P11

健康

健康で
いきいきとした
毎日を送れる
「まち、くらし」

P12～P13

健康でいきいきとした 毎日を送れる

わたしたちは、食とくらしの情報を正しく学び、
分かりやすく伝えることで、
誰もがいきいきと自分らしくくらせる場づくりを行い、
より良いくらしの選択肢を広げます。

- ① 笑顔あふれる食卓づくりを提案する
 - ・より良い“食”のあり方の追求とくらしの提案
 - ・時代に即した食の提案と食文化の伝承
- ② 情報があふれる今だからこそ正直・誠実に
分かりやすいカタチで伝える
 - ・食の安全に関する情報を正しく発信
 - ・生活に関するより良い情報をアップデート
 - ・介護や育児など多様な課題に対応した食とくらしの提案
- ③ だれもが利用しやすい「場」づくりをすすめる
 - ・楽しくつどえる“場”、だれもが利用しやすい“仕組み”づくり



コープのあるまち

あした 笑顔で未来へ

ターゲット2030

2030年、私たちが暮らす地域はどうあってほしいか。
その中で、どんな暮らしをしていきたいか。
そんなことに1人ひとりが想いをはせ、
2030年のありたい姿やその実現に向けて、
私たちに何ができるかを示すビジョン。

環 境

自然環境と
共に生きる
「まち、暮らし」

P14～P17

あんしん

みんなが笑顔で、
安心できる
「まち、暮らし」

P18～P21

自然環境と共に生きる

わたしたちは、より良い利用と行動で、
豊かな自然を未来につないでいきます。

- ①より良い消費行動・運動につなげる
「消費のスタイリスト」を目指す
 - ・持続可能な暮らし方の提案
 - ・地域課題に目を向け、食品ロスをなくす取り組み
 - ・適量、食育、住育の提案
- ②地域の資源を循環させるコーディネーターとなる
 - ・地域の資源を活用し、生産者と消費者の
モノ・コト・情報のシェアをサポート
 - ・限りある資源を大切にしたい食と暮らしの提案
- ③防災力NO.1の地域づくりを推進する
 - ・防災・減災に向けた啓発や防災を担う人材の育成
 - ・災害に備えた地域の拠点づくり

みんなが笑顔で、 安心できる

わたしたちは、一人ひとりの声や
暮らしから生まれた想いや願いを実現し、
平和でより良い暮らしを追求します。

- ①安心して子育てができるよう世代をこえて
つながる場づくりを実現する
 - ・悩みや困りごとを気軽に相談できる交流の場づくり
(地域で、オンラインで)
- ②誰もが働きやすい社会づくりを推進する
 - ・時間や場所にしばられない働き方の実現
 - ・子育て、介護、障がいの不安があっても個々の能力を
生かした働き方が実現できる仕組みづくり
- ③世界平和を願う運動体として進む
 - ・誰もが参加し、取り組みやすい平和活動の枠組みづくり
 - ・平和とより良い暮らしの実現を追求し続ける



「やさしさ つむいで」
～100周年記念ソング～

協同のある暮らし

つながり

人と人が
やさしさでつながり、
助け合える
「まち、暮らし」



貧困

まちづくり

生産・消費

パートナーシップ



「明石市 おむつ定期便」 宅配業務スタート!

2020年10月、明石市が実施する「明石市おむつ定期便」の業務を受託し、明石市内にお住まいの0歳児を持つ家庭(約2400世帯)に、月に1回おむつなどの「赤ちゃん用品」を無料で宅配するサービスを開始しました。商品を届けるだけではなく、定期的に訪問することで、困りごとや健康状態の確認などの見守り、子育て情報の提供を行い、地域のつながり作りを進めています。

第2回「わたしのSDGs アクションコンテスト」

SDGsの目指す持続可能な未来に向けて、環境、福祉、防災などの活動に取り組んでいる団体・個人から活動事例を募集。第2回目となる今回も多数の応募があり、2021年2月27日、その中から一次選考会を通過した8組(団体・個人)による、オンラインプレゼン大会を開催。50人以上が視聴し、視聴者投票を交えた審査の結果、グランプリは「GPSプロギング」の志水直樹さん、準グランプリは「SDGsゆたかるた」の神戸動植物環境専門学校に決定。地域でのSDGsの理解と取り組みの環を広げる機会となりました。



GPSを使い、歩いた軌跡で
地図上に文字を描く

「GPSプロギング」
の様子

SDGsに関連した学習会を 各地で開催

毎年組合員や地域を対象とした学習会を開催しており、2020年度はSDGsに関連した学習メニューを充実させました。特に各地の店舗や協同購入センターを活動拠点とする地域コープ委員会では、十分な感染対策を講じ、2020年度活動を再開した下半期だけでも207件の学習会を開催。脱プラスチック、地球温暖化などの環境問題や防災、女性や子どもが抱える問題など、社会課題に目を向けた学習会を開催し、意識を高める学びが広がりました。



天気予報と気象災害の学習会の様子
(11月18日野間地域コープ委員会)

コープのつどい場 「わになーれにしきた」がオープン

コープ北口食彩館の改装に伴い、2020年10月30日に地域の皆さまのつどい場「わになーれにしきた」がオープンしました。誰もがほっとくつろげるスペースとして、これから地域の皆さまと一緒に育てていきます。さらに2021年6月オープン予定の「コープ西宮南」でも、新たな地域のつどい場に向け、地元地域の皆さまとのワークショップを行い、つながりを深めています。



地域コープ委員、子育てサークルメンバー、組合員理事、店長によるテープカット

買い物支援を通じて 持続可能な地域づくり

買い物困難の課題に対処すべく、2011年に「移動店舗」をスタートし、現在9台が稼働。年間で10万人以上の方が利用されており、停留所では井戸端会議が行われるなどつながりが広がっています。また、自宅から店舗までを送迎する「買いもん行こカー」は年々利用者が増加。2016年に事業がスタートして以降現在では2000人以上の方が登録、23店舗で21台が運行しています。



買いもん行こカー乗降時の様子

被災地支援の輪が拡大

令和2年7月豪雨災害被災地へ 緊急募金を寄贈

停滞する梅雨前線により九州から中部地方の広範囲にわたり、甚大な被害をもたらした令和2年7月豪雨災害。2020年7月に緊急募金を実施し、6672万6543円が集まり、日本生活協同組合連合会などを通じて支援金として活用されました。

ハート基金による被災地支援

令和2年7月豪雨災害で被災した地域の復旧支援として、ハート基金※を拠出しました。

拠出金は、被災地NGO協働センター、熊本県社会福祉協議会、福岡県社会福祉協議会、大分県社会福祉協議会、岐阜県社会福祉協議会、山形県社会福祉協議会に拠出され、地域に設置されたボランティアセンターの運営費用などに活用されました。

※ハート基金：コープこうべ災害緊急支援基金

被災地へのタオル寄贈

令和2年7月豪雨災害で被災した地域の生協へ、備蓄していたタオル約3200枚を寄贈しました。また、水害発生地域への支援とともに、コープこうべの活動エリアが被災した際に備え、タオル備蓄の取り組みを開始しました。



組合員から提供されたタオル

第29回「コープこうべ虹の賞」の受賞者が決まりました

コープこうべ虹の賞は、1991年創立70周年を記念して設立され、心豊かに暮らせる地域社会づくりに大きく貢献した市民活動や、今後の発展が期待される市民活動を奨励し、顕彰しています。2021年度は功労賞(6団体)と奨励賞(9団体)を表彰しました。

功労賞

- NPO法人月と風と
- 兵庫県立舞子高等学校天文気象部
- NPO法人ほっとネット373
- 長沢コミュニティバス運行委員会
- 日笠山のじぎく園
- 尼崎子ども劇場

奨励賞

- コープサークルかわいいうさぎ
- NPO法人アートゆるり
- ボランティアグループ食deつながろ
- 被災支援ボランティア団体「おたがいさまプロジェクト」
- 兵庫県立松陽高等学校SDGs Project Team
- みんなで減災し隊!
- さとのわ
- トコトコくらぶ
- 諏訪山森の会

地域とつながる「大庄元気むら2020文化祭」を開催!

営業終了後の店舗を活用し、オープンした尼崎市大庄地域のつどい場「大庄元気むら～コープさんとこ」では、2020年12月に地元高校生が地域とつながる「大庄元気むら2020文化祭」を開催しました。

新型コロナウイルス感染で中止となった高校の文化祭に出演予定だった部活動の発表を中心に、地域の方もステージに上がり参加しました。また、近隣の福祉施設にはオンラインで配信し、地域と交流を深めました。“コロナ禍だから「できない」ではなく「できる」ように工夫し実行できたのは素晴らしかった”と皆さまの声もいただきました。



地元高校生の発表の様子

組合員とのインターネットを活用した交流が深まりました

新型コロナウイルスの影響を受け、2020年5月以降、インターネットを活用した交流イベントやインスタライブなどによる活動参加を積極的に進めました。コープこうべアプリのコープTOUCH投票企画では、のべ5万8000人以上が参加。4500通を超えるコメント投稿がありました。



投票企画でも情報交流

新制度での地域コープ委員会活動がスタート

各地の店舗や協同購入センターを活動拠点とした、組合員が自主自発で参加する地域コープ委員会を展開しています。約140ある地域コープ委員会では「商品」「食」「環境」などのテーマに沿って、学び・伝え・広げる活動をしています。

2020年度、新型コロナウイルスの影響を受け、地域コープ委員会は4月から6月末まで従来の活動を中止しましたが、7月以降は感染対策を講じた上で、順次再開。これまでの地域エリアの制限を無くした新たな制度の中、子どもが主役の子どもコープ委員会など新たな委員会が仲間に加わり、組合員活動の輪が広がりました。



大好きなバナナでSDGsを学んだ子どもたち

使わなくなったおもちゃを 次の世代に

2020年8月、第3地区本部(神戸市)が子どもが成長するにつれ使わなくなったおもちゃを機関紙『きょうどう』で募集し、たくさんのおもちゃが集まりました。集まったおもちゃはコープ子育てひろばで活用するほか、社会福祉法人「神戸真生塾子ども家庭支援センター」に寄贈。後日、お礼のお便りを頂くなど、地域のやさしさが子どもの笑顔につながりました。



贈られたおもちゃで遊ぶ子どもたち

子育て世代向け企画 「はじめてばこ」の取り組み拡大

2019年、サンテレビの企画として“おめでとう”“生まれてきてくれてありがとう”の感謝の気持ちと、協賛各社からの商品を「はじめてばこ」に詰め込んで生まれてくる子ども達にプレゼントする子育て支援企画がスタート。“箱のデザインがかわいい!”“いろいろ入っていて実用的なところがgood”“はじめてばこの箱に子どもの思い出を詰め込んでいくって素敵!”など、InstagramなどのSNSで、うれしいお声をいただいています。

特に兵庫県をモチーフとした箱のデザイン(コウノトリ・明石タコ・阪神タイガースなど)が好評です。

2020年度は、7130軒のご応募があり、うち789軒の方に宅配加入いただきました。たくさんの方が笑顔になれるよう“おめでとう”の気持ちを込めて、これからも「はじめてばこ」をお届けいたします。



「たつの市／はつらつベビー まごころ便」宅配業務開始

2020年8月、たつの市が実施する業務を受託し、「たつの市／はつらつベビーまごころ便」の宅配を開始しました。

たつの市にお住まいの0歳児をもつ家庭(約500世帯)を対象に生後2カ月目と5カ月目に、紙おむつや離乳食、ミルクなどの育児用品を届けるサービスで、子育ての気配りを気軽に相談していただき、赤ちゃんと保護者の見守りを行っています。



紙おむつなど育児用品をお届け

「第5回居場所サミットin神戸」を 開催

2020年8月、公益財団法人コープともしびボランティア振興財団やNPO団体などと協働で、「第5回居場所サミットin神戸～ウィズコロナ時代に求められる居場所づくり～」を開催。インターネット参加を含む209人が参加しました。講師に社会活動家の湯浅誠氏を迎えて、ウィズコロナ時代に求められる居場所の意義やあり方について再考し、明日へのステップとなるよう、参加者みんなで知恵を出し合いました。



第5回居場所サミットin神戸

エシカル消費

コープのエシカルとは誰かの笑顔につながるお買い物。

「自分のため」だけでなく「自分以外のため」…そんな気持ちに支えられるエシカル消費。

コープこうべでは4つの視点を大切にに取り組んでいます。



／ コープこうべの4つの視点 ／

私たちのお買い物で…

公正な**社会**の
仕組みが作り出せたら

社会インフラの改善や
社会的公正の実現につながる



●働く場を作り、収入の安定や
子どもの教育機会を創出

私たちのお買い物で…

豊かな**地域**を
作り出せたら

地域の担い手や生産者の支援、
被災地域復興などにつながる



コープの産直・ひょうご発・
「とれびち&とれしやき」

●地元の食材を利用することで、
一次産業を元気に

私たちのお買い物で…

地球**環境**を守り続ける
ことができれば

持続可能な
社会づくりにつながる



●食べる人、作る人、作る環境に
配慮した食べものの作り

私たちのお買い物で…

人々の「生きる」を
支えることができれば

くらしの問題の解決や
生きづらさを抱える人たちへの
支援につながる



●コープこうべの夕食サポート『ま
いくる』1食あたり0.5円を、「(公
財)コープともしびボランティア
振興財団」に寄付しています

コープスフレンドリーバナナ 産地とつながって人気No.1商品に!

「子どもに安心してバナナを食べさせたい」という組合員の声を受けて1993年に誕生したフレンドリーバナナ。できるだけ農業に頼らない栽培をめざして、フィリピン・ビスカイヤ農園のスタッフと試行錯誤を重ねて、今ではコープこうべ人気No.1のコープ商品に育ちました。

2020年「秋のコープ商品総選挙」では、堂々第1位に輝きました。また2018年にはフレンドリーバナナ25周年を記念してビスカイヤ農園の生産者にメッセージを募集、組合員から1400通もの感謝の気持ちが寄せられました。



マスコットキャラクター「フレンドリーくん」を囲んで

フードプラン特別栽培米 兵庫県産コシヒカリ つちかおり 親子で米づくり体験

1988年にいち早く環境に配慮した栽培で生産したつちかおり。2015年から組合員の親子が産地の但馬で田植え、生きもの調査、稲刈りなど一連の米づくりを体験することで、食と環境のつながりを学んでいます。2020年度は新型コロナウイルスの影響で中止。田植え準備の田おこしや田んぼの畦の草刈りなどの農作業やビオトープづくりにコープこうべ職員、JA関連職員が参加しています。秋に産地の但馬と神戸をZoom(オンライン会議システム)でつないで生産者と組合員親子が交流しました。



つちかおりの産地と神戸をオンラインでつないで交流

フードプラン産地・生産者とのオンライン交流

Zoom(オンライン会議システム)を活用し“産地に行きたいけど行けない”、“産地に来てほしいけど遠方なので難しい”という組合員と生産者の要望をマッチングする取り組みを開始しました。



北海道訓子府産地とのZoom交流会の様子

くねっぶがいがいも・たまねぎ、おおや高原有機野菜の産地交流を実施し、約300人の組合員、職員、生産者が参加しました。新型コロナウイルスの影響への対応だけでなく、今まで参加できなかった組合員と生産者が気軽に参加できるオンライン交流を今後も活用し、より多くの組合員、生産者の交流・コミュニケーションの場を広げていきます。

地域との取り組み

「兵庫県の食材をもっと大切にしたい」という組合員の声に応じて2010年に誕生した「ひようご発」シリーズ。「ひようご発」マークの商品の利用は、兵庫県内の生産者への経済的な支援につながります。

また組合員と生産者との交流を通じて、顔が見える信頼関係や同じ地域に暮らす一体感を育んでいます。

近年、瀬戸内海の栄養不足で養殖ノリの色落ちが問題に。そこで南あわじ市での「かいぼり」に参加し、地元の漁業者と農業者、市・県職員、大学生、地元企業とともに農業用ため池にたまった栄養たっぷりの泥を海に流すことで豊かな海づくりに取り組んでいます。



南あわじ市のため池の「かいぼり」の様子

食品工場の地産地消の取り組み

六甲アイランド食品工場では持続可能な社会の実現に向けて、健康、環境、地域にお役立ちする取り組みを進めています。コープス神戸ブレッドは、地元兵庫県産の小麦の使用量を2021年度より現行の3%から6%に高め、地域の農業を応援しています。



神戸ブレッド

岩手県田老町漁協との震災を通じた交流

「コープス芯付き塩わかめ」の産地、岩手県宮古市の田老地区は、2011年の東日本大震災で甚大な被害を受け、震災直後にコープこうべの職員が組合員の励ましのメッセージを持って訪問しました。また、その後も生産者が神戸を訪れ学習や交流会を行うなど、人と人との交流を大切にしています。

また、豊かな海は豊かな森がすることから、田老町漁協では1992年から水源となる山に広葉樹の植樹活動を行っています。2014年から毎年、コープこうべの職員も参加しています(2020年は新型コロナウイルスの影響で中止)。

2018年からは田老町漁協産わかめ1品購入につき3円を田老町漁協に寄付(期間限定で2020年は12万702円)。豊かな海を将来に残すための植樹活動などに活用されます。



岩手県宮古市田老町漁協にて

健康

健康でいきいきとした
毎日を送れる
「まち、くらし」



飢餓



健康と福祉



まちづくり



生産・消費



パートナーシップ



ひょうごまるごと 健康チャレンジ2020

『ひょうごまるごと健康チャレンジ』は、適度な運動や「あいうべ体操」、禁煙、手洗いの励行など、健康な生活習慣づくりを目指して参加者を募集。30回継続して取り組んだことを報告していただき、達成者の中から抽選で景品が当たる企画として、2018年から兵庫県生活協同組合連合会、兵庫県内8つの医療生協と共に取り組んでいます。

2020年2月から5月には、臨時企画として、ラジオ関西の協力の下「ひょうごまるごと健康チャレンジ2020プレ企画」を実施。新型コロナウイルスの影響で、「健康な生活習慣を継続したい、取り入れたい」と思う多くの方が参加しました。

2020年9月から2021年1月にかけては、本番企画を実施。「食事コース」「運動コース」「リフレッシュコース」「生活習慣コース」の4つのコース内のメニューを参考に、各自のチャレンジ目標を決定。30回取り組んでいた（毎日じゃなくても大丈夫!）、達成後は、「結果報告はがき」を事務局へ送付。こちらも多くの方にご参加いただきました。

最適な「健康チャレンジ」を見つけ、「健康づくり」のきっかけになる企画、と好評をいただいております。組合員や地域の健康づくりに貢献しました。

B

運動コース

B-1

いつもより
1000歩
多く歩こう

さらに1000歩で筋力アップ。「駅まで歩く」「買い物のときに遠回り」など、生活の中で工夫をしましょう。

B-2

エスカレーター・
エレベーターは使わない
運動時間をつくるのが難しい方にお勧め。たった数十段の階段でも積み重ねれば筋力アップに。

B-3

181回
ラジオ体操をしよう
朝に身体を動かすと基礎代謝がよくなります。伸ばす、曲げる、ねじる動きでしっかり身体を使いましょう。

B-4

ストレッチをしよう

身体を伸ばす、引っ張る動作も運動の一つで、けがの防止に、呼吸を止めずにストレッチをしましょう。

B-5

目標を決めて
筋トレをしよう

「なりたい身体」を思い描いてはじめてみましょう!「少ししんどい」強度が目安です。

自分流でもOK!

たとえば・・・

- ・公共交通機関に乗ったとき座席に座らない
- ・毎日縄跳びをする など

毎日食べるものだから… 食パンから始める塩分削減

六甲アイランド食品工場では、2019年9月より順次食パンの塩分を減らす取り組みを開始しました。対象は熟成ロイヤル、神戸ブレッド、サクッと食パン、ライ麦ブレッドです。毎日食べるものだからおいしさはそのままに15%～20%の塩分を削減しました。1枚あたりはわずかな量の削減ですが、年間の生産量（2019年度実績から換算）と比較すると約7トンの削減になります。また、糖質を考えたふんわりパンのように近年の健康志向の高まりを受け、それぞれに対応する商品の開発も進めています。

今後も食品工場では組合員ニーズに合わせて商品開発を進め、健康にお役立ちする取り組みを続けていきます。



BDHQ食習慣調査で健康づくりをサポート

2017年から、一人ひとりの摂りすぎの栄養素や不足しがちな栄養素を知るきっかけづくりの取り組みとして、東京大学の佐々木敏教授が考案した食習慣調査票BDHQを活用した学習をスタート。

2020年9月には第2回BDHQオンライン調査を実施し、調査に参加いただいた1716人から回答がありました。女性の参加率が92.0%と高く、回答いただいた方の平均年齢は女性が55.9歳、男性が67.0歳という内訳でした。

今回調査した「12の栄養素」のうち、注目の「食塩」は2019年の第1回調査と同様「やや多い、多い」が全体の99.2%と、ほとんどの方が「摂り過ぎ」という傾向が見られました。

食塩を構成する「ナトリウム」は、日本人にとって1日のふつうの食事をとっていれば、不足することがない栄養素。むしろ、過剰摂取によって高血圧や胃がんのリスクが高まると言われており、コープこうべではBDHQ調査を基に学習会を開催。自分の食習慣を「はかり」その結果票を読み解くなど、減塩の大切さについて学習しました。



BDHQの学習会の様子



▲ 第2回BDHQ
オンライン調査の結果

詳しくはこちら➡



プロバスケットボールチーム「西宮ストークス」とオンラインでトレーニング

2020年8月、コープこうべが取り組んでいる健康づくり支援企画の一つとして、「西宮ストークス」とコラボし、オンラインイベントを開催。練習場から参加したミニバスケットチームなど、40人の小学生が画面を通して、選手との交流を深めました。この日の目玉は、現役選手から学ぶ、自宅でできるトレーニング。選手が「なぜストレッチをするのか」や「ボールをコントロールするコツ」をわかりやすく伝えながら、ストレッチやボールハンドリングなどを実演し、子どもたちが再現。選手が子どもたち一人ひとりに声をかけたり、冗談で笑わせるなど、パソコンやスマホの画面のなかで、笑顔とつながりの輪が広がりました。



オンラインでの健康づくり企画

食物アレルギーがあっても… CO・OPスマイルディッシュ

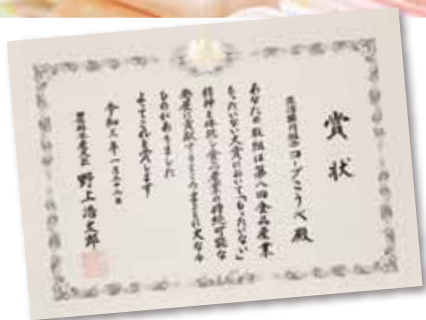
食物アレルギーに悩む組合員支援として「スマイルディッシュ」の品揃えに力を入れています。「スマイルディッシュ」は食物アレルギーを引き起こす物質のうち「特定原材料7品目」を使用せずに開発された商品群で「家族といっしょに食べると、もっとおいしい。」という想いを込めて誕生しました。現在、宅配では必要な時にいつでも購入できるように「いつでもめーむ」に掲載する事で毎週注文いただけるようになっており、店舗では2021年3月現在30店舗で品揃えをしています。

また、各地で「食物アレルギー学習会」を定期的で開催し、食物アレルギーへの理解や支援を深める取り組みに力を入れています。



環境

自然環境と共に生きる
「まち、暮らし」



第8回食品産業 「もったいない大賞」 農林水産大臣賞受賞!!

これまで店舗や食品工場、エコファームで取り組んできた「食品リサイクル」や「てまえどり」、フードドライブなど組合員や地域諸団体・行政とともに進めてきた食品ロス半減の取り組みが認められ、第8回食品産業「もったいない大賞」農林水産大臣賞(最高賞)を受賞しました。

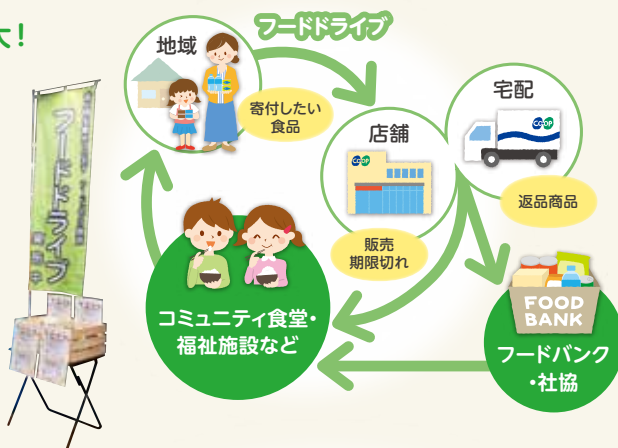
受賞記念オンライン企画開催(2021年5月8日)

受賞記念企画として“「もったいない」が未来を変える”をオンラインで開催。食品ロスに関する基調講演や地域で活動する団体からの事例報告、パネルディスカッションを実施。地域全体で食品ロス削減に取り組むきっかけになりました。

フードドライブの常時受付を全店舗へ拡大!

家庭で使いきれない余剰食品を持ち寄って、食料支援につなげる「フードドライブ」。2021年4月から、全ての店舗(コープミニはルミナス箕面のみ実施)でフードドライブの常時受付を開始しました。国内の食品ロスの半数近くは家庭から発生しており、地域社会全体で取り組むフードドライブを通じて、食品ロス削減を推進します。

また、生活困窮者への支援や居場所づくり、貧困問題解決など、地域福祉の向上にも積極的に取り組みます。



エコファームへの 「堆肥化用加工くず」回収店舗を拡大!

店舗で発生した加工くずや廃棄食品を回収・堆肥化し、その堆肥で野菜を育てるエコファームの取り組みを20年以上前から展開しており、その取り組みは今なお全国的に注目されています。2021年度からは、加工くずなどの回収店舗をさらに10店舗拡大(計48店舗)し、食品廃棄物の削減・食品リサイクル率のさらなる向上をめざします。



地球温暖化防止と再生可能エネルギー

(有)みずほ協同農園で 電気と野菜作りがスタート

2020年1月から始まった(有)みずほ協同農園でのソーラーシェアリング※の取り組み。農地で育てた野菜の店舗への出荷が本格化。また、エネルギーと食の資源循環を学ぶ組合員体験イベントも実施するなど、取り組みが広がっています。

※ソーラーシェアリング：農地の上に太陽光パネルを設置して太陽のエネルギーを分け合うことによって、農業と発電事業を両立させる取り組みです。



みずほ協同農園ソーラーシェアリング発電所

再生可能エネルギー 100%事業所が拡大

2030年までにCO₂排出量を半減(2013年度比)することを目標に、様々な取り組みを進めています。2020年1月、8つの事業所において使用する電気を再生可能エネルギー100%の電気で賄う取り組みを開始。2021年4月には再エネ100%事業所が59カ所に拡大しました。



←再エネ
100%事業所の
ページはこちら

「コープでんき」の紹介動画が完成

「コープでんき」では、再生可能エネルギーを含む“みらい想い”の電気を各地の発電所から調達しています。このたび、ご自宅に居ながら発電所を見学できる動画が完成。ぜひ“コンセントの向こう側”を覗いてみませんか。



コープでんきの動画はこちら→

プラスチック削減

近年深刻化しているプラスチック問題に対応し、「エコチャレ2030」に新たなチャレンジ項目「プラスチック使用量の25%削減」を追加。

削減に向けて、食品工場の食パン包材の薄肉化や畜産ノントレイ包材の導入、宅配商品のビニール袋サイズの短縮など、取り組みを進めています。

畜産部門ではノントレイ商品の導入実験を20店舗で開始



環境チャレンジ目標「エコチャレ2030」に プラスチック削減目標を加え、取り組みをさらに強化します

環境チャレンジ目標 エコチャレ 2030

目標年度：2030年度

2030年に向けた
環境チャレンジ目標を
2018年度に策定し、
取り組みを推進しています。

追加

チャレンジ3

事業活動における
プラスチック
使用量を25%削減！

重点施策

- プラスチック製容器包装の削減
- 再生プラやバイオプラなど代替素材への切り替え推進
- プラ削減につながる商品・サービスの開発・供給促進

チャレンジ1

事業活動における
CO₂排出量を半減！

重点施策

- 設備更新／車両更新
- 省エネチューニング
- 太陽光自家発電・自家消費
- 電気自動車・トラックの導入
- コープでんきへの切替

チャレンジ4

環境に配慮した
エシカルな商品や
サービスの開発・
供給推進！

重点施策

- 環境配慮型のエシカルな商品・サービスの開発・供給推進
- 地産地消の推進

チャレンジ2

事業活動における
食品廃棄物を半減！

重点施策

- 店舗廃棄重量削減
- フードバンクなどへの食品提供拡大
- 食品リサイクル率向上

チャレンジ5

組合員とともに
エシカル消費を拡大！

重点施策

- エシカルな商品、エシカルな暮らしのあり方に関する学習・広報の推進
- 組合員とともにエシカル消費を拡大

マイバッグ運動NEXT

40年以上前からマイバッグ運動を展開し、環境保全に取り組んできましたが、今日、地球温暖化やプラスチック問題が深刻化しています。2020年、「マイバッグ運動NEXT」として“減らす・増やす・広める”をコンセプトに掲げ、改めてマイバッグ運動を通して、循環型社会の実現を目指します。

2020年7月のレジ袋有料化義務化以降は、マイバッグを持参する組合員がさらに増加し、7月のマイバッグ持参率は過去最高の92.3%を記録しました。また、100周年企画として組合員から募集した図柄をレジ袋のデザインとして採用するなど、組合員や地域と一緒に運動を進めています。

組合員デザイン
図柄レジ袋



フードプラン30周年



「人と自然にやさしい食べものづくり」を求めて1991年に始まったフードプランは、2021年で30周年を迎えました。「食べる人だけではなく、つくる人、作物や動物、産地の自然まで含めて健全で幸せであること。そんな社会の仕組みをつくる。それがきっと、本当に未来に対して持続する社会につながる。」フードプランにはこんな理念が込められています。30周年を迎えるにあたり、これまでの安全・安心に加え「持続可能な食べものとは」について、組合員・生産者・職員と一緒に考えてまいります。



雪どけの3月に植えられた「おおや高原有機野菜ほうれん草」

とれぴち・とれしゃき

「とれぴち」は【ひょうご地魚推進プロジェクト】、「とれしゃき」は【兵庫地場野菜振興プロジェクト】の愛称で、『地元の魚や野菜をもっと食べましょう！そして、地元の魚や野菜を選びとることの意味を知ってほしい』と、兵庫県漁連や全農兵庫と一緒に取り組んでいます。店内での普及活動、料理会（2020年度はデモンストレーション）、産地体験、学習会などを行い、魚や野菜を身近に感じてもらい、産地体験で生産する人や場を直接知ることによって理解を深める活動をすすめています。これらの取り組みを通じて、生産や自然環境とのつながりを感じ、食べもののこと、私たちの暮らし方を見つめ直すきっかけにしたいと考えています。



とれしゃき兵庫フェア

恩納村 サンゴの森づくり基金

コープスもずくの原産地である沖縄県恩納村のサンゴ礁を守る活動に賛同。1品購入ごとに1円を、「サンゴの森づくり資金」として恩納村漁協にお渡しする活動を2011年より続けています(2020年度は132万71円を寄付)。

また、虹っ子平和スタディツアーの一環として組合員の子供も達が恩納村漁協を訪れ(2020年は新型コロナウイルスの影響で中止)もずくの加工現場の見学とサンゴ生育状況の確認を行っています。また子供も達はサンゴの養殖場で植え付けるミニサンゴの苗床づくりにも挑戦しています。



養殖されたサンゴも順調に育っています

尼崎の森中央緑地で “コープ 活動の森づくり”

NPO法人「あまがさき環境オープンカレッジ」と協働で、“コープ活動の森づくり”を行っています。“コープ活動の森”の木々は4年前に植樹したばかりで生育途中。まだまだ定期的な手入れが必要で、2カ月に1回程度、草刈りや間伐などの作業を組合員とともに実施しています。

2020年度は、新型コロナウイルスの感染対策を十分に行い、親子で木こり体験、中学生の指導のもとでの木工体験、リースづくりやしめ縄づくりなどのイベントも行いました。参加者は、自然の素晴らしさを体験し、環境保護の大切さについて理解を深めました。



親子で草刈り、間伐に参加する組合員

公益信託「コープこうべ環境基金」の 助成枠・助成額の拡大

創立70周年を記念して、1992年に公益信託「コープこうべ環境基金」を設立。兵庫県内の自然公園などにおけるすぐれた自然環境の保存及び活用に関する活動に対する助成を行ってきました。

2020年度の募集より助成対象を省エネルギーやリサイクル活動などにも拡大、さらに、助成額を総額300万円から800万円に増額するなど、地域の環境活動の取り組み支援を強化しました。

また、助成団体が参加したオンライン交流会では、事例報告や質疑応答などを通じ、交流を深める機会となりました。



オンライン交流会での助成団体の事例報告
(NPO法人たつの・赤トンボを増やそう会)

2020年度の
助成先はこちら➡



あんしん

みんなが笑顔で、
安心できる
「まち、暮らし」



「コミュニケーション支援ボード」を全店設置

2019年8月、コープ仁川(宝塚市)では聴覚に障害のある方、難聴の方へのレジ対応のため「コミュニケーション支援ボード」の設置を開始しました。使用する支援ボードは、宝塚ろうあ協会や地域ボランティア、店舗職員の意見をもとに作成。以後、改良を重ねながら2020年12月、全店舗での設置がスタートしました。新型コロナウイルスの影響で職員のマスク着用が必須になっている中、読唇術が使えずに困っている人たちが安心して買い物できるよう、店舗の環境づくりを進めています。

商品検査センターの取り組み

<https://kensa.coop-kobe.net>

コープこうべ商品検査センター

検索

1967年に検査活動をスタートした商品検査センターでは、商品の検査、店舗作業場の衛生状態を調べる調査、お申し出品の調査、科学的に正しい知識の普及に関すること、品質広報などの役割を担っています。

同センターホームページでは、組合員からの商品に関する疑問への回答事例(540件)を「商品Q&A」として掲載。さらに、食の安全に関するさまざまな情報を掲載しています。

また、商品検査センター職員の検査技能の維持・強化を目的に、ISO規格(残留農薬分野)を取得し、試験所としての機能の向上に努めました。



2020年度実績

検査分野	検査項目	検査件数
微生物	一般生菌数、大腸菌(群)、黄色ブドウ球菌など	4,266
残留農薬	一斉分析約440農薬	297
動物用医薬品	抗生物質、合成抗菌剤	32
食品添加物	保存料、着色料、発色剤、漂白剤など	28
品質管理項目	ヒスタミン、油脂の酸価、過酸化物質価など	24
アレルゲン	食品工場生産品のアレルゲン(乳成分・小麦など)	32
重金属	米のカドミウム	43
放射性物質	セシウム134、セシウム137	103
異臭	お申し出品の石油臭、薬品臭などの原因物質	84
異物	お申し出品の異物(プラスチック・金属など)	1,169
合 計		6,078

調査など	内 容	件数
商品お申し出調査	お申し出品の調査・回答書作成	3,645
栄養成分表示作成	コープスの栄養成分表示作成	88

イベント名	開催件数 参加人数
学習会 職員学習会、食の安全学校など	8件 181人

※新型コロナウイルスの影響で、通常の組合員の見学は中止いたしました。



はかるたいせつプロジェクト 「第4回商品検査の日のつどい」開催

2020年10月、ひょうごまるごと健康チャレンジ2020 キックオフイベントとして、はかるたいせつプロジェクト「第4回商品検査の日のつどい」を、ラジオ関西からの生放送&YouTube同時配信で開催しました。

「ウィズコロナ時代のリスクコミュニケーション」をテーマに中継拠点とのリポートを交えながら「食の安全クロスロードゲーム」を実施し、立場によってさまざまな考え方があったことや「量で考えることの大切さ」を考える機会となりました。

参加者から寄せられたメッセージに対し、ゲストの堀口逸子教授(東京理科大学)から、「安全は科学、安心は好き嫌いなど心の問題のため、切り離して考えること」や、「サプリメント(健康食品)はあくまで“食品”。つつい過剰摂取になりがちになるため、どれくらい摂ったかキチンと記録すること」などコメントいただきました。

人の意見を聞くこと(否定しない)、自分の意見が言えること、そして自分自身で考えることの大切さをあらためて認識できる1日となりました。



第4回商品検査の日のつどいの様子
詳しくは→



<https://hakarutaisetsu.kobe.coop>

はかるたいせつ

検索

防災、ローリングストックで 災害の備えを

「使って、補充して」を繰り返して食品や日用品をストックするローリングストック法。

地域の組合員を対象に学習会を開催し、災害知識の習得やポリ袋調理のレシピ提案、コープ商品を使ったローリングストックの推奨などを行っています。

さらに、各団体と協力して組合員のアイデアレシピを掲載したBOSAIレシピブックを発行するなど取り組みが広がっています。



学習用「ローリングストック商品とレシピブック」

忙しいママ&パパを応援 「CO・OPきらきらステップ」

コープオリジナルの離乳食、幼児食「CO・OPきらきらステップ」は子育てをするママ・パパを応援したいという想いから生まれました。「子どももうれ



しい。私もうれしい。「家族」がうれしい。」商品として、「離乳食期以降向け」「幼児食期向け」の種類をそろえています。特徴は①安心な原料を徹底した品質管理、②便利な冷凍食材が充実、③使い方が自由な「素材型」、④幼児が食べやすい大きさ&味付けとなっています。現在宅配では、必要な時にいつでも購入できるよう「いつでもめーむ」の2ページ目に掲載し、毎週注文が可能です。店舗では2021年3月現在52店舗で品揃えしています。

またコープこうべネットでは「きらきらステップ」の商品を活用したレシピを定期的にInstagramで発信して忙しいママとパパの子育てを応援しています。

ユニセフ子どもスマホサミット in神戸

2020年1月、「ネット依存」をテーマに、中高生自身がスマホやインターネットの問題点について考えて自由に話し合い、大人も参加して意見交換を活発に行いながら、国・自治体・先生・親・企業・自分たちへの提言をまとめて発表しました(その後、全国5都市の代表の子どもたちが全国サミットでまとめた提言が「国連子どもの権利委員会」へ提出されました)。



グループごとに提言を発表する生徒たち

核兵器廃絶をもとめて

被爆者の「生きている間に、核兵器のない世界を」の願いを受け、2017年から集中的に取り組んだ「ヒバクシャ国際署名」を2020年12月末に国連本部に提出しました。11月、この署名のキャンペーンリーダーを務めた、林田光弘さんをお招きして学習会「核兵器のない未来のために」を開催。核兵器の現状を理解し、何をすればいいのかを考えました。また、アメリカ合衆国ネバダ州で行った「臨界前核実験」に対して、核廃絶に向けた核軍縮に真摯に取り組むことを強く要請しました。



平和へのメッセージが寄せられた横断幕を
組合員有志でつくりました

発達障がい体験講座を 各地で開催

NPO法人そらしど(神戸市)の「そらしどキャラバン隊」は障がいのある子どもを持つ保護者がメンバーとなり発達障害体験講座を各地で開催しています。2020年6月、神戸市北区社会福祉協議会と共催で、体験講座を開催しました。

また2020年9月、コープサークル「発達障がいについて考える会こはく」(豊岡市)が、コープデイズ豊岡にて、大人の発達障がいに関心のある方を対象に、敏感すぎたり鈍すぎる感覚を疑似体験する講座を開催しました。体験することで「発達障がい」を理解し、障がいをそのまま受け入れる社会やその人らしく暮らせる地域を目指すこれら地域団体の取り組みを支援しています。



感覚の疑似体験講座

DVを知る学習会を開催

当事者だけの問題と捉えられがちなDV(身体的・精神的・経済的・性的暴力)。それを日常的に見聞きする子どもの成長に与えるダメージは深刻で、一人でも多くの人が日常に潜むDVや児童虐待に気づき、自分に引き寄せて考え「だれもがのびやかに暮らせる社会」につなげることが求められています。

2021年3月、NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべの正井禮子さん、三野敬子さんを講師に迎え、DVを知るためのオンライン学習会を開催。寸劇を交えた講師の話から、DVに該当する事例や、悩んでいる人への対応方法などを学び、DVへの理解を深めるきっかけとなりました。

平和を考える

ユニセフ写真パネル展

兵庫県ユニセフ協会では、困難な状況にある世界の子どもたちの現状をより多くの人たちに伝え、私たちの「当たり前」を考えるきっかけとして、写真パネル展を年間4回開催しました。



現地で使われている支援物資も一緒に展示

「絵本」で「平和」を 「未来」につなぐプロジェクト

不安定な世界情勢の中、分断や閉塞感が感じられ、明るい未来が見えにくくなっています。このような状況の中、2020年11月、絵本を通じて、子どもたちに、平和への思いと未来への希望を育むプロジェクトを始動しました。2021年4月からプロジェクトのひとつとして、おすすめ絵本を公募する「あなたのおすすめ絵本！教えてください」をスタート。紹介された絵本をリストアップし、地域の団体や施設などに寄贈します。



各店舗でご案内

国際理解講座

兵庫県ユニセフ協会では、世界の「今」をまず知ることから始めるきっかけとして、毎年、国際理解講座を開催。2020年度も4回開催し、世界中で様々な活動をされている多彩な講師から貴重な体験や情報をお聞きました。



サテライト会場のひとつ、協同学苑からもオンラインで参加

ユニセフシアター

2020年9月、兵庫県ユニセフ協会では、パレスチナとイスラエルに暮らす子どもたちのドキュメンタリー映画「プロミス」の上映会を開催。京都大学大学院人間・環境学研究科の岡真理教授に、詳しく内容を解説していただきました。映画では、全く違う社会環境・政治形態の中で共に暮らす子どもたちが、交流の機会を得て考え方が変わっていく様子が描かれ、長年解決の道が見えないパレスチナ情勢の根底にある問題について考えるきっかけとなりました。



「対話は対等な者の間でしか成立しない」と語る
岡真理教授

「生協の父」とも呼ばれる賀川豊彦の指導のもと、
コープこうべの前身となる2つの購買組合
（「神戸購買組合」「灘購買組合」）が誕生したのは
今から100年前のこと。

これまで「愛と協同」の精神を原点に、組合員が
心と力を寄せ合い、くらしの安心をつむいできました。

創立100周年を迎えた今日、コープこうべは次の100年を
見据えた2030年ビジョン「ターゲット2030」を策定しました。

「誰一人取り残さない」社会の実現を掲げるSDGsの考え方に共鳴しつつ、
2030年のありたい社会の実現に向け、取り組みを進めます。



SDGs (持続可能な開発目標) とは…

2015年9月、ニューヨーク国連本部に
おいて、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国
首脳に参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する、持続可能な
開発のための2030アジェンダ」が採択されました。そこに盛り込まれて
いるのが、「誰一人取り残さない」社会の実現に向けた、世界を変えるための
17の目標「SDGs(エスディー・ジーズ)」。

途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年
1月から実施が始まっています。

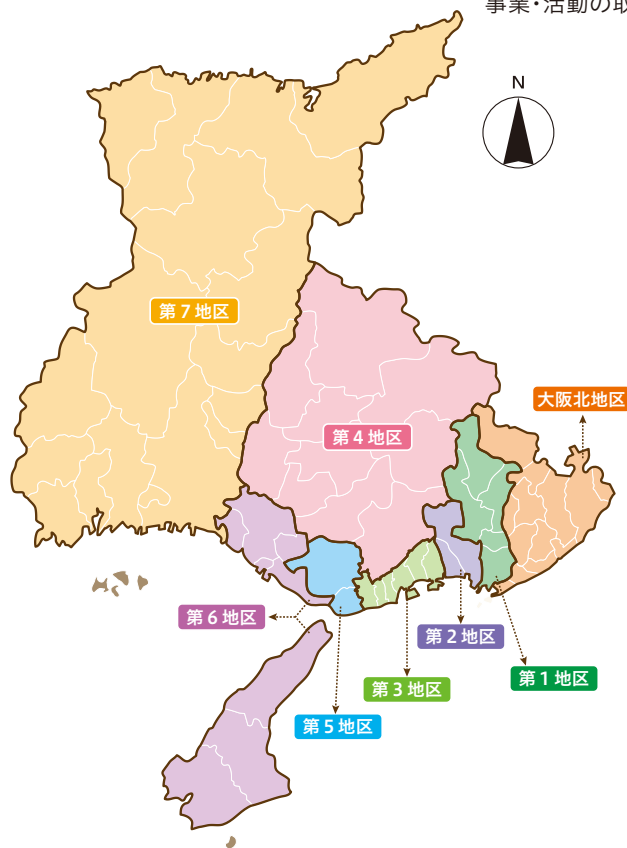
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



	2030年のありたいまち、くらし／みんなが(で)できること	対応する主なSDGs	共通するSDGs
つながり	人と人とがやさしさでつながり、助け合える ● 助け合える「仕組み」や「機会」を地域社会とともにつくる ● さまざまな資源をつなぐ ● くらしのインフラとしての役割を担う	貧困 1 貧困をなくそう まちづくり 11 住み続けられるまちづくりを 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任	
健康	健康でいきいきとした毎を送れる ● 笑顔あふれる食卓づくりを提案する ● 情報があふれる今だからこそ正直・誠実に分かりやすいカタチで伝える ● だれもが利用しやすい「場」づくりをすすめる	飢餓 2 飢餓をゼロに 健康と福祉 3 すべての人に健康と福祉を まちづくり 11 住み続けられるまちづくりを 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任	
環境	自然環境と共に生きる ● より良い消費行動・運動につなげる「消費のスタイリスト」を目指す ● 地域の資源を循環させるコーディネーターとなる ● 防災力NO.1の地域づくりを推進する	エネルギー 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 気候変動 13 気候変動に具体的な対策を 海の豊かさ 14 海の豊かさを守ろう 陸の豊かさ 15 陸の豊かさを守ろう	
あんしん	みんなが笑顔で、安心できる ● 安心して子育てができるよう世代をこえてつながる場づくりを実現する ● 誰もが働きやすい社会づくりを推進する ● 世界平和を願う運動体として進む	教育 4 質の高い教育をみんなに 成長・雇用 8 働きがいも経済成長も 人権・平等 10 人や国の不平等をなくそう 平和 16 平和と公正をすべての人に	パートナリーシップ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

地区別 活動エリア

コープこうべでは、活動エリアを8つに区分し、活動エリアごとに地区本部を設置しています。各地区本部では、地域のニーズをよりきめ細かく把握して事業・活動の取り組みを推進し、行政や地域団体との連携・協力を強めています。



大阪北地区	大阪市(西淀川区、東淀川区、淀川区)、 豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、 箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
第1地区	尼崎市、伊丹市、宝塚市、川西市、 猪名川町
第2地区	西宮市、芦屋市
第3地区	神戸市(東灘区、灘区、兵庫区、長田区、 須磨区、中央区)
第4地区	神戸市(北区)、西脇市、三木市、小野市、 三田市、加西市、丹波篠山市、丹波市、 加東市、多可町
第5地区	神戸市(垂水区、西区)
第6地区	明石市、洲本市、加古川市、高砂市、 南あわじ市、淡路市、稲美町、播磨町
第7地区	姫路市、相生市、豊岡市、赤穂市、養父市、 朝来市、宍粟市、たつの市、市川町、福崎町、 神河町、太子町、上郡町、佐用町、香美町、 新温泉町、京都府京丹後市

活動エリアの並びは、全国地方公共団体コード(総務省)順

コープこうべ グループの紹介

(株)協同食品センター

- 農産品・水産品・畜産品などの加工・盛り付け、包装、販売



(株)コープムービング

- 貨物運送事業
- 構内作業
- 地域担当業務
- 物流関係作業
- 店舗作業・検収業務
- 折込チラシセット業務
- 福祉用具レンタル業務など



(株)コープフーズ

- すし、惣菜類、弁当の製造販売およびレストラン事業
- まいくる・中学校給食などの給食事業



(株)協同食品センター

- 農産品・水産品・畜産品などの加工・盛り付け、包装、販売



CO-OP ASSIS (株)コープエイシス

- 各種保険
- 収納代行
- リース
- ツーリスト



YUAI 阪神友愛食品(株)

- リサイクルに関する業務
- 食品の包装業務
- 知的障がい者の職業訓練



CC-OP コープ住宅(株)

- 増改築リフォームの企画・設計・施工・アフター管理



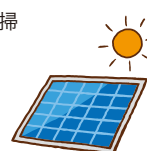
(株)コープライスセンター

- 精米業
- 米の加工・販売



(株)コープ環境サービス

- ビル保守管理・警備・清掃
- 駐車場管理
- ホームサービス事業
- 自然エネルギーを利用した発電事業など



(株)コープベーカリー

- インストアベーカリー「小麦の森」の運営事業
- 食品工場の製造部門、管理部門受託事業



(株)ゆうあいサポート

- リサイクルに関する業務
- 清掃業務



(有)みずほ協同農園

- 農産物販売事業
- 農業体験学習事業
- 貸農園事業



【CO・OP NEXT100】 次の100年に向けて

2021年4月、コープこうべは創立100周年を迎えました。これまで、戦前・戦後の混乱期や阪神・淡路大震災、リーマンショックなど幾多の危機に直面しながらも、組合員や地域の皆さまと共に力を合わせ、乗り越えてきました。そして今、私たちは、地球温暖化による気候変動や新型コロナウイルスという新たな脅威に直面しており、協同の力が改めて試されようとしています。

「生協の父」である賀川豊彦はかつて、『私たちは、欠乏のゆえにではなく、過剰のゆえに苦しんでいる』と述べ、過剰生産や富の一極集中を批判し、助け合いの組織である協同組合の結成に心血を注ぎました。賀川の言葉は、今も色褪せていないばかりか、全世界が「誰ひとり取り残さない」社会の実現をめざしてSDGsに取り組み、新たな脅威に立ち向かっている今日、さらに輝きを増しています。

100周年を迎えるにあたり、私たちは賀川の言葉を胸に、知恵と想いを寄せ合いながら、10年後の“ありたいまち、くらし”を表現したビジョン「ターゲット2030」を策定しました。

つながり 健康 環境 あんしん

この『コミュニケーションレポート』では、組合員や地域の方々と共に取り組んだ様々な事例の一部を掲載していますが、取り組み始めて間もないまだ「つばみ」のような事例も含まれます。今後これらが大きな花を咲かせ、「つながり 健康 環境 あんしん」がカタチとなるよう、引き続き組合員や地域の皆さまとのパートナーシップを築きながら、笑顔あふれる未来をめざし、共に次の100年に向けた一歩を踏み出します。

2021年6月

コープこうべ概要

(2021年3月31日現在)

名 称	生活協同組合コープこうべ
設 立	1921年(大正10年)
所 在 地	〒658-8555 兵庫県神戸市東灘区住吉本町 1丁目3番19号
出 資 金	359.0億円
供 給 高	2694.4億円
組合員数	171万8402人
世帯加入率	49.4% ※活動区域の世帯数に占める組合員数の割合
活動区域	兵庫県全域・京都府京丹後市、 大阪府北部(豊中市、箕面市、 池田市、吹田市、茨木市、高槻市、 摂津市、能勢町、豊能町、島本町、 大阪市淀川3区)
主な事業	組合員世帯を対象に、 商品の生産・供給事業および 教育・学習を行い、 生活文化の向上を図る事業など
職 員 数	9452人
事 業 所	住吉事務所／1カ所 地区本部／8カ所 店舗／150店舗 協同購入センター／23事業所 六甲アイランド食品工場／1カ所 物流センター／7センター など

アンケートのお願い

今後の報告書づくりの参考にさせていただきますので、
皆さまのご意見・ご要望をお寄せください。
右の2次元バーコードを読み取って、入力願います。



なお、アンケートにお答えいただいた方の中より、
抽選で毎月10名様に、コープこうべオリジナル
「コピーバッグ(子ども向けコットンバッグ)」をプレゼントします。

※プレゼント企画は、2022年3月末の受付で終了します。
※当選の結果は、発送を持ってからさせていただきます。

「コピーバッグ」▶
(非売品)



100周年
記念サイト



コープこうべ コミュニケーションレポート2021

編集・発行/生活協同組合コープこうべ

ホームページ <https://www.kobe.coop.or.jp>

